

ATP

# ATP AWARD

2020

ASSOCIATION OF ALL JAPAN  
TV PROGRAM  
PRODUCTION COMPANIES  
AWARD

▶▶ 第36回 ATP 賞 テレビグランプリ  
受賞作を振り返る

創り手が選ぶ  
創り手のための賞！



**THE 36TH GRAND PRIX**

BSフジサンデースペシャル ザ・ノンフィクション特別編

「おじさん、ありがとう～子供たちへ…熱血和尚の遺言～」

バンエイト / BSフジ、フジテレビジョン

ATP

# CONTENTS

## 03 グランプリ & 最優秀賞

BSフジサンデースペシャル ザ・ノンフィクション特別編  
おじさん、ありがとう ～子供たちへ…熱血和尚の遺言～

## 05 最優秀賞

オオカミちゃんには騙されない  
ドラマ24 コタキ兄弟と四苦八苦

## 07 優秀賞

BS1スペシャル 戦争花嫁たちのアメリカ  
真夜中のドキュメンタリー 息子の終活 知的障がい者の親として、何を遺すか？  
日中国際共同制作 陶王子 2万年の旅 器の来た道 前編・後編  
アカペラ日本一決定戦 全国ハモネプリーグ  
スイーツ列車紀行 オリエント急行ライン・お菓子秘話 西欧の魅惑／東欧の甘美  
音が出たら負け  
連続ドラマW 坂の途中の家  
完本 怪談牡丹燈籠 Beauty & Fear  
ドラマ10 これは経費で落ちません！

## 12 奨励賞

BS1スペシャル バレエの王子になる！ "世界最高峰"ロシア・バレエ学校の青春  
聖なる巡礼路を行く ～カミーノ・デ・サンティアゴ1500キロ～  
ザ・ヒューマン 誇り高き悪魔 ジーン・シモンズ  
ラストドライブ ～涙と笑顔の免許返納！家族の絆物語～  
急上昇↑ZOOチューバー  
アナザーストーリーズ 運命の分岐点 熱気が生んだ真夜中の解放区 ～オールナイトニッポン伝説～  
BS-TBS開局20周年記念ドラマ 伴走者  
福岡放送開局50周年スペシャルドラマ 天国からのラブソング  
僕だけが17歳の世界で

## 15 最優秀新人賞 & 優秀新人賞

梅澤 慶光

## 16 優秀新人賞

出口 明  
福士 順己

## 17 奨励新人賞

内島 悠介  
富田 大智  
関 駿  
中川 奈津子  
塩田 明里

## 19 特別賞

志村 けん  
武井 泉  
「遠くへ行きたい」制作チーム

## 20 総務大臣賞

完本 怪談牡丹燈籠 Beauty&Fear

## 21 講評

総評 / 部門講評  
新人賞講評 / 総務大臣賞講評

ATP  
全日本テレビ番組製作社連盟



# グランプリ

THE 36TH GRAND PRIX

● ドキュメンタリー部門 ● **最優秀賞**

BSフジサンデースペシャル ザ・ノンフィクション特別編

## おじさん、ありがとう

～子供たちへ…熱血和尚の遺言～

バンエイト / BSフジ、フジテレビジョン



取材・構成・演出 八木里美(バンエイト)  
 プロデューサー 西村陽次郎(フジテレビジョン)  
 編成 宗像孝(BSフジ)



**受賞者コメント**

この度ATP賞グランプリという歴史ある大きな賞を頂き、大変光栄です。ATP賞は同業者の諸先輩方がプロの厳しい目で作品を吟味するという賞ですので、取材にかけた時間や編集時の苦労も含めて評価して頂けたと思うと、喜びもひとしおです。ドキュメンタリー制作というのは、非常に孤独な作業だと常々感じています。何か問題が起きて自分一人で考え対処し、取材のゴールが見えない不安にも一人で耐えなければなりません。制作環境も年々厳しくなる中、時に後ろ向きな気持ちになってしまうこともあります

が、その度にお寺での日々を思い出します。廣中さんや子供たちの姿を見て、心から「伝えたい」と思い、その熱に動かされて来ました。私の原点であり、心が帰る場所です。その集大成となる作品を、このような形で認めて頂いたことが何よりも嬉しいです。本当はその目で見て欲しかったですが、廣中さんの墓前に報告に参ります。ありがとうございました。

取材・構成・演出 八木 里美

**講評**

テレビカメラが存在する事に、この施設の人々すべてが何の意識も持っていないと感じられる程、空気のような存在になった取材者サイドの姿勢に敬意を持って讃えたい。カメラを回すまでにどれだけ通ったのか、どれだけ話し込んだのか、築き上げた信頼関係が画面の全てに溢れていた。見せたくない、知られたくないシーンにもカメラが居られたのはその為だ。決して見限らない事の大切さを教えてくれる人生の教科書のような作品である。

高安 克明



# 最優秀賞

THE 36TH BEST AWARD

● 情報・バラエティ部門 ●

## オオカミちゃんには騙されない

テレビマンユニオン / ABEMA SPECIALチャンネル



総合演出 鈴木隆司(テレビマンユニオン)  
 ディレクター 大島明(テレビマンユニオン)  
 宮本剛(テレビマンユニオン)  
 プロデューサー 東考育(テレビマンユニオン)  
 竹村悠(テレビマンユニオン)  
 横山祐果(AbemaTV)、桑野俊一(AbemaTV)  
 企画構成 アリエジュンスケ

### 受賞者コメント

この番組では男女の恋模様だけでなく、メンバー間に芽生える「友情」やライバルをも思いやる「心」、人としての「成長」…そんな若者たちの姿を描くことを大切にしてきました。今、「恋愛リアリティー番組」は過渡期にあると思います。「こんな番組は必要なのか」そんな批判も聞こえています。そのような状況の中での受賞は、この番組自体が「恋愛リアリティー番組」に対する批評であり、そこを評価してもらえたのだと感じています。

プロデューサー 東考育(テレビマンユニオン)

### 講評

地上波ではなく、製作会社と配信会社が全12回もの恋愛バラエティ番組を製作し新しい領域へチャレンジしたことを評価したい。女子高生の中では「オオカミちゃん」のワードがブームになり、また日経MJ2019ヒット商品番付で名を連ねたなど社会現象も巻き起こした。数ある恋愛バラエティの中でも「オオカミちゃん」の演出方法を見出し、男女の恋愛展開を単に追うだけでなく、バラエティの目線を演出したことも評価できる。

伊藤 慎一

# 最優秀賞

THE 36TH BEST AWARD

● ドラマ部門 ●

## ドラマ24 コタキ兄弟と四苦八苦

AOI Pro. / 放送:テレビ東京、配信:NTTぷらら、Paravi



©「コタキ兄弟と四苦八苦」製作委員会



脚本 野木亜紀子  
 監督 山下敦弘(マッチポイント)  
 音楽 王舟&BIOMAN (スペースシャワーネットワーク)

### 受賞者コメント

脚本が良い、監督が良い、キャストが良い、スタッフが良い、そうなる作品が良いという、当たり前のことがこの作品では起こってしまった、手前味噌ながら、それに尽きます。テレビ東京の演谷プロデューサーが旗を振り、「脚本:野木亜紀子×監督:山下敦弘×出演:古舘寛治、滝藤賢一、芳根京子」という、一生に一度おこるかどうかわからない、その奇跡の当たり前に出会えた幸運に感謝申し上げます。コロナ禍を経て、より一層、生きる苦しみと喜びを見つめ続けるこのドラマが皆さまの心に響きますように祈っております。

プロデューサー 平林 勉(AOI Pro.)

### 講評

「哲学」があり「人間味」が溢れたオリジナルドラマである。W主演の古舘寛治さんと滝藤賢一さんの化学反応の妙、野木亜紀子さんの秀逸な脚本に集まったと思われる豪華なゲスト。中でも樋口可南子さんゲスト回は涙が溢れた。とって、山下敦弘監督の演出や芳根京子さん、他出演者も負けていない。DVやLGBTなどピターで繊細な話ばかりにも関わらず、心地良く感じる不思議さ。最高である。制作陣に心から拍手を贈りたい。

内丸 摂子

ドキュメンタリー部門

BSIスペシャル 戦争花嫁たちのアメリカ

テムジン、NHKエンタープライズ / NHK BSI



受賞者コメント

企画・制作のために尽力して下さったプロデューサー、スタッフの皆様、日本・全米各地に住む「戦争花嫁」とその家族の皆様へ感謝します。放送後、多くの方から「ああいう女性は皆“バンバン”（売春婦）だと思っていた／親から聞かされていたが、認識を改めた」とい

う声を聴けたのが嬉しかったです。これからも、『普通の人びと』の『美しい人生』に光を当てる取材をしていきたいと思います。

ディレクター 小柳 ちひろ (テムジン)

講評

戦後敵国で様々な差別を乗り越え強く生き抜いた女性たちの、将来に伝えるべき貴重な証言集。女性たちの語りや暮らしぶりには、差別に負けずに生き抜いた誇り、共に戦った“相棒”とも言ふべき夫への思い、次の時代を生きる子供の親としての矜持など、それぞれの

人生が鮮やかに刻みこまれていて、胸を打たれた。彼女たちの生き様を伝えようとする子や孫の姿も、今なお止まない人種差別を背景に際立ち、重層的な番組となった。

伊豆田 知子

制作統括 齋藤圭介(NHK)、太田宏一(NHKエンタープライズ)、鐘川崇仁(テムジン)  
ディレクター 小柳ちひろ(テムジン) / 撮影 高橋秀典  
コーディネーター 白井一枝(KSKコンサルタンツ)  
編集 内山克己(白川プロ)

ドキュメンタリー部門

真夜中のドキュメンタリー 息子の終活 知的障がい者の親として、何を遺すか?

CTV MID ENJIN / 中京テレビ放送



受賞者コメント

還暦を迎え、丁度1か月が過ぎて飛び込んできた吉報。歴史ある素晴らしいATP賞の優秀賞をいただき、感無量の思いです。障がいのある息子の行く末を案じながら6年前、デジカメで撮り始めましたが見切り発車でスタートしましたが作品として成立できたことに驚

き、そして受賞にも驚きです。次回作は息子が自立して生活していくことで完結編と考えています。その集大成で“最優秀賞”を獲得できればテレビマン冥利に尽きます。

ディレクター 田中 穂積 (CTV MID ENJIN)

講評

超私的ドキュメンタリーとでも呼ぼうか。素材は極めて私的だが、包含するテーマは普遍的だ。介護が長引くと人は優しくなれなくなる。自己嫌悪に陥り追い詰められていく。その現実に共感する視聴者も多いだろう。公表を決断した作者の尋常ならざる覚悟と勇気は評

価に値する。正解のない模索の中で心温まる場面も描かれる。介護は絶望ではない、愛情の確認作業なのだと思知らされる。ご子息を案じつつ奥様の日頃の苦労を労いたい。

三井 貴美也

ディレクター 田中穂積(CTV MID ENJIN)

ドキュメンタリー部門

日中国際共同制作 陶王子 2万年の旅 器の来た道 前編・後編

NHKエデュケーショナル、プロダクション・エイシア、Tencent Penguin Pictures / NHK BS4K



受賞者コメント

制作の出発点は2014年にATP賞総務大臣賞をいただいたNHKスペシャル『和食』でした。フランスで放送を視た陶芸アーティストから「あなたに陶磁器の歴史のドキュメンタリーを作って欲しい」と連絡がありました。陶磁器の中心は何と言っても中国です。中国に何度も通い、出資者やアニメーション作家と打合

せを重ねました。来年には映画として展開していきます。器は世界共通、手にし、盛り、愛でて。この作品が分断する世界をつなぐ希望となることを願っています。

ディレクター 柴田 昌平 (プロダクション・エイシア)

講評

未来に伝える、価値の高いジャンルのテーマであるが、視聴者の関心を惹くには極めて難しい「地味なネタ」と言っても過言ではない。それをここまで壮大なスケールに広げた制作者の情熱と努力に敬意を表したい。

人類の歴史を、「陶王子」という精霊を産み出す事により、幻想と現実の世界を心地よく交差させながら、真実を浮き彫りにするタイムトラベルの旅を描き上げた。まさに力作。

高安 克明



ディレクター 柴田昌平(プロダクション・エイシア)  
制作統括 大兼久由美(プロダクション・エイシア)、  
牧野望(NHKエデュケーショナル)、齊藤倫雄(NHK)、  
朱楽賢(TencentPenguin Pictures(中国))

情報・バラエティ部門

アカペラ日本一決定戦 全国ハモネプリーグ

IVSテレビ制作 / フジテレビジョン



受賞者コメント

歴史ある賞を頂きスタッフ一同、驚き、喜んでおります。誠にありがとうございます。ハモネプは今年20年目を迎え、出演するグループからは「小学生の頃からずっと見ていた」という声をよく聞きます。今回、作り手が選ぶATP賞の受賞で、出る側・作り手側、共に楽しんで頂

けたと受け止め、誇らしく思います。今後も立ち上げスタッフが大切にしていたモノは失わず、でも令和時代にアップデートした挑戦するハモネプを目指します。

演出 大塚 真史 (IVSテレビ制作)

講評

アカペラで日本一になりたい！素直にその情熱を感じさせる番組。テレビ的なコンテンツであり、熱唱する姿に魅了されて飽きることなく決勝まで見るのができた。演出手法もアカペラの熱を邪魔することなくスタジオ展開で収録されている。4年ぶりの再開らしい

が海外展開コンテンツとして有望であると思われる。コンテンツのパワーは人の心を動かすことが出来るかと実証されたバラエティ番組として評価したい。

伊藤 慎一

総合演出 福浦与一(IVSテレビ制作)  
プロデューサー 佐藤基(IVSテレビ制作)、近藤昭代(IVSテレビ制作)  
演出 大塚真史(IVSテレビ制作)、武田喜栄(IVSテレビ制作)  
ディレクター 岡部時子(IVSテレビ制作)、荻野美樹(IVSテレビ制作)

情報・バラエティ部門

スイーツ列車紀行 **オリент急行ライン・お菓子秘話** 西欧の魅惑／東欧の甘美  
ドキュメンタリー・ジャパン、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム



受賞者コメント

優秀賞をいただくにあたり感謝したいこと。

- ① 高島礼子さんのとっても丈夫な胃袋。
- ② 撮影したスイーツを決して残さず食べ尽くすスタッフの勿体ない精神。
- ③ 毎日食べても飽きること無い至極のスイーツを生み出すパティシエ達。
- ④ 限られた日数で鉄道旅を完遂出来た、定時

運行を常とする各国の鉄道員魂。

- ⑤ 思いもつかなかったアイデアを出してくれたプロデューサー陣の頭脳。
- 皆さまありがとうございました。ホント助かりました。

ディレクター 酒井 克  
(ドキュメンタリー・ジャパン)

講評

女優・高島礼子を旅人に、鉄道を乗り継ぎ、その国その土地の伝統菓子の中にヨーロッパならではの歴史や民族を描く前後編3時間の大作。またケーキ…またお菓子…辟易すると思っていた予想は見事に覆された。硬軟織り交ぜた縦横無尽な構成・演出で、一点突破・全

面展開なエンタメを久しぶりに堪能できた。大型企画ならではの濃厚な読後感はテレビならではの。かつては多く見られたこの演出スタイルの火はぜひ灯し続けたい。

松葉 直彦

プロデューサー 新津総子(ドキュメンタリー・ジャパン)  
ディレクター 酒井克(ドキュメンタリー・ジャパン)  
カメラ 角山正樹(104) / ビデオエンジニア 平戸孝之(三友)  
アシスタント・ディレクター 森脇可実(ドキュメンタリー・ジャパン) / 編集 斎藤淳一

情報・バラエティ部門

音が出たら負け

日テレ アクスオン、ピアーズ、ザ・ワークス / 日本テレビ放送網



受賞者コメント

この度はお選び頂きまして誠に有難うございます。「目が離せない番組」「家や学校で真似しなくなる番組」を目指して企画会議を重ね、「TVから音をなくす」という結論に至りました。企画提案時には賛否両論ありましたが、このような賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。制作に携わった全ての方、アドバイ

スを下さった諸先輩方など皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。今後もチャレンジを続けていきたいと思ひます。

企画・プロデューサー 野中 翔太  
(日テレ アクスオン)

講評

大きな物音や大声を出しにくい昨今、多くの人が共感できるゲームだと思う。挑戦中にナレーションやSEを入れない演出は、見る側にも緊張感が伝わり、実際に私も息を潜めながら見入ってしまった。タイトル一発で内容が理解できるシンプルさ、しかも、言葉が分から

なくても映像で面白さが伝わるので、海外展開も期待できる番組ではないだろうか。視聴者参加型番組やイベントコンテンツとしても多くの人の心を掴みそうな企画だと思う。

小林 啓之

企画・プロデューサー 野中翔太(日テレ アクスオン)  
演出 藤村潤(日テレ アクスオン)、山田大樹(日テレ アクスオン) / 企画・ディレクター 須田真光(ピアーズ)  
プロデューサー 北詰由賀(ザ・ワークス)、新井秀和(日本テレビ)  
チーフ・プロデューサー 納富隆治(日本テレビ)

ドラマ部門

連続ドラマW **坂の途中の家**

テレパック / WOWOW



受賞者コメント

「母性」とか「お腹痛めて産んだ子だから」などといった理念を凌駕する、子育ての現場。戦い真っ最中の方、乗り越えた方、これから挑む方、すべてのお母さんにエールを送ろうと、敏腕なスタッフ・キャストが一丸となってドラマを創り上げてくださいました。取材で同様

の事件の裁判を傍聴した際に、被告であるお母さんが泣き出した時の、裁判員たちと、脚本・篠崎さんの涙を忘れられません。栄えある賞、心より感謝申し上げます。

プロデューサー 黒沢 淳  
(テレパック)

講評

角田光代原作・テレパック制作としては「八日目の蝉」(第27回グランプリ)以来二度目の受賞。今回もまた画力、構成、脚本、演出、演技、総合力は群を抜いていた。ドラマ化にあたっては原作にない裁判官や裁判員それぞれが抱える事情も描かれ、群像劇としてもさらに広が

りを見せる。主人公のみならず、この中の誰かが自分かもしれないと思わせ、俳優の表情から目が離せずセリフのひとつひとつが聞き逃せず、突き刺さり、揺さぶられ、ずぶずぶとのめり込むように見た。

代情 明彦

原作 角田光代 / 脚本 篠崎絵里子  
音楽 山口由馬(YUGE inc.) / 監督 森ガキ侑大(クジラ)  
プロデューサー 岡野真紀子(WOWOW)、黒沢淳(テレパック)  
金澤友也(テレパック)

ドラマ部門

完本 怪談牡丹燈籠 **Beauty & Fear**

オットィモ、NHKエンタープライズ / NHK BS4K

総務大臣賞とW受賞! P.20をご覧ください



受賞者コメント

怪談 牡丹燈籠の『怪談』は、「幽霊が主役のホラー」という意味ではなく、「怪しげなる人間たちの物語」というのが、原作者である三遊亭圓朝の本意ではないでしょうか? 通し落語で全二十二段という長大な怪しの物語を完全に映像化した作品は、過去にはありません。タ

イトルにつけた『完本』という文字は、制作スタッフ一同の誇りでもあります。失われゆく日本人の精神文化の継承に、僅かでも寄与出来たのなら本望です。

脚本・演出 源 孝志  
(オットィモ)

講評

3組の男女が織りなす愛欲と金、陰謀、仇討ちを濃厚濃密な人間ドラマとして描き切っている。ヒトの持つグロテスクな部分が丁寧かつ豪快に表現され、特にお露が現世に残した恋焦がれる想いはあまりに切なく、幽霊になって彷徨うのも頷けるほどの説得力を持つ。ド

ロドロの愛憎劇や剥き出しの欲望は幽霊よりも人の方が怖ろしいと教えてくれる。共感と嫌悪感とワクワク感が詰まった良質な時代劇を堪能した。

白川 士

原作 三遊亭圓朝『怪談牡丹燈籠』  
脚本・演出 源孝志(オットィモ) / 音楽 阿部海太郎  
制作統括 千野博彦(NHK)、伊藤純(NHKエンタープライズ)、八木康夫(オットィモ)  
プロデューサー 川崎直子(NHKエンタープライズ)、石崎宏哉(東映京都撮影所)

OUTSTANDING PERFORMANCE AWARD

ドラマ部門  
ドラマ10 これは経費で落ちません!  
AXON / NHK 総合



受賞者コメント

経理部の森若さんが対峙するのは国税庁や巨悪な組織ではなく、少しずるい事している厄介な社員たち。経理部こそ領収証から見えてくる社員の本質的な人柄を理解していると思うのです。正面から悪を斬る！ドラマではなく、経理部の立場から釘を刺す事で周りに

少し変化が起きてくる…そんな程よい匙加減を探りながらの作品作りは大変でした。この賞は、支えてくれた全スタッフ・キャストの賜物です。皆様心より感謝しております。

制作統括 坂下 哲也 (AXON)

講評

これまで地味で脇役だった「経理」という仕事を見事エンターテインメントに押し上げた。伝票に隠された真実をミステリーの謎解きの様に迫り思わず手に汗を握ってしまう。殺人事件や派手なアクションがある訳でもなく、コミカルに描かれる仕事への誇りや働く人達

の人間らしさにクスリと笑えたり胸が熱くなったりと満足度は高い。見終わった後の幸せな気持ちは明日も仕事に行きたくなること必至の上質な人間ドラマ。

白川 士

監督 中島悟 (AXON)

脚本 渡辺千穂、藤平久子 (Sacca)、蛭田直美 (ディレックス)

制作統括 菅原浩 (NHK)、坂下哲也 (AXON)

プロデューサー 戸谷志帆梨 (AXON)

奨励賞

INCENTIVE AWARD

BSIスペシャル  
バレエの王子になる! "世界最高峰"ロシア・バレエ学校の青春  
日本電波ニュース社、NHKグローバルメディアサービス / NHK BSI



語り 原田美枝子  
制作統括 猪俣修一 (NHK) 吉田宏徳 (NHKグローバルメディアサービス)  
プロデューサー 江南亮 (日本電波ニュース社)  
ディレクター 高橋泰一 (日本電波ニュース社)  
撮影 川口慎一郎 (海プロダクション)  
編集 前高健治 (ギトリ)

受賞者コメント

番組を見た多くの方が、アロンら4人に直接SNSでファンレターを送ってくれました。コロナの影響で、プロ一年目は舞台に立つチャンスが少なくなりましたが、日本からの応援は大きな励みになっているそうです。この9月からプロ2年目です。さらに若い才能も入団してくる中、競争がどんどん激しくなります。それでも、苦勞の先にこそ生まれる表現があると知っている4人の未来は明るいと感じています。

プロデューサー 江南 亮 (日本電波ニュース社)

講評

レジェンドを数多く輩出したクラシックバレエ最高峰の学校の、ドラマチックな舞台裏に心が躍った。自らが頂点を極めたカリスマダンサーだったからこそ、校長の貴重な言葉の数々。ごく一握りのトップを目指す若者たちの、4者4様の生き生きとした青春。そしてロシアならではのバレエ文化の深み。それらが印象的な映像と編集で、より鮮やかに描かれた。ワガノワの一人称ナレーションや時に挿入される音楽シーンも効果的だった。

伊豆田 知子

聖なる巡礼路を行く  
〜カミーノ・デ・サンティアゴ1500キロ〜

ドキュメンタリー・ジャパン、NHKエンタープライズ / NHK BS8K



ディレクター 御牧賢秀 (ドキュメンタリー・ジャパン)  
制作統括 柚口三奈子 (ドキュメンタリー・ジャパン) 鈴木真美 (NHKエンタープライズ) 嘉悦登 (NHK)

受賞者コメント

数多くの旅番組を作ってきたが、「旅」そのものの魅力や、人間ドラマまで踏み込んで描けたのは初めてのこと。果敢に8Kカメラに挑戦した技術陣、予定がコロコロ変わるロケに愚痴一つ言わず対応してくれたコーディネーター陣、仕上げ段階で幾多の知恵を授けてくれた編集や音効のスタッフ、NHK関係者の方々に賛辞を送りたい。そして何より、旅人の篠原さんをはじめ、快く取材を受けていただいた沢山の巡礼者の方々に感謝します!

ディレクター 御牧 賢秀 (ドキュメンタリー・ジャパン)

講評

1500キロもの距離を歩く中で、時に共に助け合い、時に酒を酌み交わしながら、自らの人生と向かい合っていく人々の姿が、丁寧な取材を積み重ねることで描き出されていた。ロケの体制作りにも大変なご苦勞があったと思う。地域が変わるごとに趣を変える巡礼路の美しい風景や建造物が、中世から祈る人々を見守ってきた巡礼路の歴史を感じさせ、人間の内面を描きながらも紀行番組としても見応えのある、稀有な番組だと感じた。

伊豆田 知子

ザ・ヒューマン 誇り高き悪魔 ジーン・シモンズ  
オルタスジャパン、NHKグローバルメディアサービス / NHK BSI



ディレクター 津田雄介 (オルタスジャパン)  
取材 大川広明 (オルタスジャパン)  
制作統括 前川誠 (オルタスジャパン) 吉田宏徳 (NHKグローバルメディアサービス) 川口潤 (NHK)

受賞者コメント

生きることは苦勞に伴い、悲しいこともたくさん起こる。それでも機嫌良く笑顔を絶やさずユーモアを忘れないことは、新たな時代を生き抜くバランス感覚になっていく。深く傷付いた人や、やる気が起きない人にこそジーン・シモンズの生き様に触れて欲しい。このドキュメンタリーは、スタッフ全員で知恵を出し合い作った力作です。このような賞を頂けたことに深く感謝します。ありがとうございました。

ディレクター 津田 雄介 (オルタスジャパン)

講評

KISSが特異なロックバンドなら、当作品もまた他のエントリー作品とは一線を画している。まず着が許された段階で、ほぼ作品としての勝敗は決したのではないかと。相当の突破力と交渉力がなければ撮れないだろう。制作陣に敬意を表す。また50分の作品中、3分の1はライブの演奏シーンである。ノーナレーションで無駄な演出は省いている。だからこそシモンズの言葉や母の教えが利いている。ドキュメンタリーに理屈は要らない。

三井 貴美也



優秀賞 & 奨励賞  
OUTSTANDING PERFORMANCE AWARD & INCENTIVE AWARD



プロデューサー 大谷重雄(吉本興業)  
黒木彩香(BS-TBS)  
加茂忠夫  
(オフィスクライン)  
演出 山本カンスケ  
(オフィスクライン)

## ラストドライブ ～涙と笑顔の免許返納! 家族の絆物語～

吉本興業 / BS-TBS

情報・バラエティ部門

### 受賞者コメント

社会問題にもなっている高齢者の自動車事故と免許返納に向き合う家族に、最後のドライブ「ラストドライブ」をテーマに密着させていただきました。そこには家族を思う気持ちや楽しかったドライブ思い出など、様々な家族の絆の物語がありました。本番組を通してこの問題を改めて考える一助になればと思い、制作させていただきました。取材させていただいたご家族の皆様、出演者、スタッフの皆様、誠にありがとうございました。

プロデューサー 大谷 重雄  
(吉本興業)

松葉 直彦

### 講評

活字メディアやネット情報で知った気になっていた「免許返納」。この4文字の奥には様々な巡りや葛藤があった。よく考えれば当たり前のことを、ふと気づかせてくれるのもテレビの持つ大事な役割のひとつだ。返納した方がいい。絶対したくない。家族の心配はわかっている。自分はまだまだ大丈夫。…銜いのないストレートな取材ながら、描かれた人生のコーナーコマは、テレビでないと伝えられないモノに他ならない。



制作統括 黒田健一(NHK)  
制作統括・演出 後藤 恵  
(NHKエンタープライズ)  
プロデューサー 天野元裕  
(NHKエンタープライズ)  
構成作家 樫野太紀、酒井義文  
楠田信行、谷口マサヒト

## 急上昇↑ZOOチューバー

NHKエンタープライズ / NHK 総合

情報・バラエティ部門

### 受賞者コメント

「時間をかけて撮影してきたNHKの動物映像を再利用しましょう」。面識もなかった当社の自然班とエンターテインメント班との食事会の一言が番組の始まりでした。それがこのような名誉ある賞をいただけて本当に嬉しいです！出演者の皆様、夢に動物が出るほど資料映像を見てアイデアを考えてくれた樫野さんを始めとする作家さん、協力してくれた「ダーウィンが来た！」班、全員で喜びを分かち合い次への活力にさせていただきます。

制作統括・演出 後藤 恵  
(NHKエンタープライズ)

小林 啓之

### 講評

番組製作において「SDGs」を掲げたことが、新しくして深く「未来的」。しかし、単に素材を再利用する「リサイクル」ではなく、新しいアイデアを加え、より価値の高いものを生み出す「アップサイクル」を実現している。「動物番組」の皮をかぶった「ネタ番組」とも言える内容で、子どもも大人も楽しめる番組に仕上がっていた。料理のように「同じ素材を使って違うものを作る」スタイルが、未来の製作現場で確立される予感がした。



制作統括 堂垣彰久(NHK)  
村井晶子  
(NHKエデュケーショナル)  
プロデューサー 伊豆田知子(スローハンド)  
ディレクター 中村裕(スローハンド)  
町田亘(スローハンド)

## アナザーストーリーズ 運命の分岐点 熱気が生んだ真夜中の解放区 ～オールナイトニッポン伝説～

NHKエデュケーショナル、スローハンド / NHK BSプレミアム

情報・バラエティ部門

### 受賞者コメント

オールナイトニッポンは、無名だがキラリと光る若者を探し歩いてラジオマイクの前で語らせた。タブーをも恐れぬ放送を届けるのは、「ひとりひとり」のリスナーだった。上司への始末書「屁の河童」とチャレンジを続けた初期の総合プロデューサー 亀淵昭信さんは、「表現を生業とする現場で、私たちが忘れかけていること」を改めて思い出させてくれた。恐れず、おもねらず、朗らかに…。オールナイトニッポンは、永遠の青春の証だ。

ディレクター 中村 裕  
(スローハンド)

松葉 直彦

### 講評

とにかくたまらないキャスティングだった。オールナイトニッポンを一つの文化と捉え、誕生から80年代黄金期の逸話を、当時のパーソナリティたちが次々と語る演出は、シンプルながら魅せられた。作り手自身の熱狂…、面白いと思ったことを本気でやる覚悟…、マスは一人ひとりの集合体でしかない意識…、とかく不自由に、コンプラに縛られ、炎上に怯え、作り手としての矜持を忘れかけている我々への警鐘としても響いた。



原作 浅生鴨(講談社)  
脚本 清水有生  
演出 麻生学(東京島)  
プロデューサー 東田陽介(テレパック)  
藤尾隆(テレパック)  
遠藤宗一(BS-TBS)

## BS-TBS開局20周年記念ドラマ 伴走者

テレパック / BS-TBS

ドラマ部門

### 受賞者コメント

ひとりではたどり着けない場所に、二人ならいけるかもしれない。「走る」ことだけが、今を生きるすべて。それだけが共通点の凸凹コンビの闘いを描いたドラマです。走り切った先にある「勝敗」とは別の何か、観てくださった方の人生の、どこかに刺さると良いなと思っておりました。関わってくれた全ての方々に感謝し、そして、今回受賞作に選んでくださったことに感謝し、観てくださった全ての方に感謝します。

プロデューサー 東田 陽介  
(テレパック)

代情 明彦

### 講評

贅肉をそぎ落とし物語の面白さを追求した作りが深い。視覚障害者と伴走者の単純な話に終わらせず、お互いのバックボーンにも厚みを持たせ人間ドラマとして、挫折を味わった曲者同士のパディものとして、アスリート同士のスポーツエンターテインメントとしても楽しめた。肉体を作り上げて臨んだ俳優陣も素晴らしい。様々なドラマのピークをクライマックスのマラソンに持って行き、ラストまで一気に走り抜けて、きちんと感動まで運んでくれた。



監督 藤谷拓稔(福岡放送)  
エグゼクティブプロデューサー 鎌倉由和  
(福岡放送)  
プロデューサー 松尾嘉典(福岡放送)  
渡邊浩仁(日テレアックスオン)  
星野恵(日テレアックスオン)  
脚本 金沢知樹、いとう菜のは

## 福岡放送開局50周年スペシャルドラマ 天国からのラブソング

日テレ アックスオン、R.I.S Enterprise / 福岡放送、BS日テレ

ドラマ部門

### 受賞者コメント

本作の企画者で監督＝福岡放送の藤谷拓稔氏が総合演出を務める番組「発見らくちやく！」で取り上げた実在の人物をモチーフにしたドラマ。イッセー尾形さん演じる光井浩という人を多くの方に伝えたいという彼の熱い想いと、光井浩さんの魅力に全キャスト＆スタッフが感銘を受け、心血を注いだ作品。絶対に伝えねばならない使命、モノ作りの原点に立ち戻れた「大切な作品」に高評価いただけた事を心から感謝いたします。

プロデューサー 星野 恵  
(日テレ アックスオン)

代情 明彦

### 講評

元ネタとなった番組の感動を温度もそのままにドラマ化して伝えたいという制作者の気概が福岡から熱く伝わった。本当にあったことなのかと疑いたくなるくらい感動エピソードだが、それが嘘ではないと最後に実際の映像で証明してみせ感動が爆発。涙腺崩壊。最高のキャスト陣、中でもイッセー尾形氏は喜怒哀楽(怒はない)を飄々と演じきって見事。「お好きにどうぞ」おじいちゃんの優しい言葉、無償の愛に包まれた家族の姿にただただ心洗われ深く長く感動が残った。



脚本 相沢友子  
演出 小椋久雄、金井敏、松本花奈  
プロデューサー 藤野良太(AbemaTV)

## 僕だけが17歳の世界で

AbemaTV / ABEMA

ドラマ部門

### 受賞者コメント

今回の作品は、「ABEMA」というティーン層が集うプラットフォームということもあって、彼女彼女たちに連続ドラマを見ることでしか味わえない感動を届けたい一心で企画しました。「10代が熱狂する恋愛リアリティショーを超える憧れをドラマでどうつくるか」と模索した結果、たどり着いたのが「恋愛ファンタジー」という切り口でした。皆で想いを込めて制作したものが、こうして奨励賞をいただけたこと、とても嬉しく思っております。

プロデューサー 藤野 良太  
(AbemaTV)

内丸 摂子

### 講評

亡き17才の少年が、時空を超えて現世に戻ってきた意味とは…。そんなファンタジー溢れるオリジナル連続ドラマ。地上波では若い世代の「恋愛ドラマ」が激減。だからこそ「AbemaTV」で制作OAされた「青春恋愛ドラマ」は目を引いた。ミステリー要素も面白く、世代を超えた求心力は新メディアの今後の裾野の広がりを予見させる。実績が少ない若手俳優の活躍できる場としても期待したい。未来のスターが生まれるはずだ。



# 最優秀新人賞 & 優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD



企画・ディレクター  
**梅澤 慶光**  
(テレビ朝日映像)



**最後のホームルーム**  
同窓会をプロデュース  
BS朝日

プロデューサー 麻生裕也(テレビ朝日映像)  
チーフディレクター 立石芳孝(テレビ朝日映像)  
構成作家 河合秀仁



## 受賞者コメント

この度は、栄えあるATP最優秀新人賞にご選考していただき、誠にありがとうございます。この栄誉は、決して自分だけの成果ではありません。入社1年目の新入社員が考えた企画を採用していただいたBS朝日の皆様、ご指導していただいた先輩方の皆様、取材に応じてくださった皆様のお陰であります。「一生記憶に残る同窓会になりました」。卒業生の皆様に言われたときに、番組の存在意義を感じ、テレビ業界を志して良かったと思いました。

## 講評

入口はポップで、仕掛けの工夫を見る。そして着地した出口の遠さに驚く。振り返ると、働くことの困難さや感情の揺れを垣間見たように感じ、心打たれる。一般の方へのキャラクタライズに強引な“テレビらしさ”がなく、優しい気持ちで見た。参加者の表情からも“この人(チーム)でなければ”できない番組だと思う。個人的で、極めて繊細な思いを「テレビで話してもいいか」と思うまでに、取材のなかで重ねた時間と会話に敬服する。

永井 朝香



現在の目標は、3年以内に新企画を通して、総合演出として結果を残すことです。多くの挫折や失敗を経験すると思います。報われない時間が続き、諦めそうになった夜、自分の心に鞭を打ってくれるのが、このATP賞なのだと思います。これからも、人に笑われてしまうくらい大きな目標を掲げて、愚直に努力を重ねて、有言実行していきます。

# 優秀新人賞

EXCELLENCE NEWCOMER AWARD



企画・ディレクター  
**出口 明** (NHKエンタープライズ)

**プロフェッショナル 仕事の流儀**  
全力で、いってみよう!コメディアン萩本欽一  
NHK 総合



プロデューサー 大坪悦郎(NHKエンタープライズ)  
撮影 桃田憲春(シバテック)  
編集 大崎義則(キャラマード)

## 受賞者コメント

「人生は長い」と思う。1970年代～80年代、萩本さんはテレビの顔だった。『欽ドン!』『欽どこ』、高視聴率を連発し、ついた異名が「視聴率100%男」。それから30数年。萩本さんはその間ずっと新たな笑いを作ろうともがいてい

た。長い時間だ。私がこの世に生まれ、言葉を獲得し、社会に出るまでと同じ時間だ。勝てるわけがない。ので、裸でぶつかった結果、できたのがこの番組です。欽ちゃん、長生きしてください。

## 講評

今回の新人賞の中で完成度が頭一つ抜けた素晴らしい作品で、満場一致の優秀新人賞。テレビへの露出は第一線を退いた欽ちゃんの「今、何を描くのだろう?」という興味で見ていたが、欽ちゃんのお笑いとは何か?という哲学を通して、テレビマンとしてどう番組を作

るべきかとても勉強になり感心させられた。派手さはないが、構成・ロケ・編集いずれも長編が初めてとは思えないクオリティ、出口Dの優秀さ実直な取材姿勢が伺える。

工藤 恵司



企画・ディレクター  
**福士 順己** (テレコムスタッフ)

**青春マイルストーン**  
只今、迷走中 落ちこぼれお笑い芸人奮闘記  
CSスカパー Ch.529 ベターライフチャンネル



プロデューサー 大伴直子(テレコムスタッフ)  
寺島高幸(テレコムスタッフ)、設楽実(真如苑)  
編集 芦垣均  
撮影 平林総一郎(テレコムスタッフ)

## 受賞者コメント

春とヒコーキの2人を追いかけて、初めて足を踏み入れた地下のライブハウス。決して華やかな舞台ではありませんでしたが、何者かになろうともがく「若手芸人」たちの姿に、不思議と励まされた自分がありました。2人がカ

メラの前で自分たちのダメさをさらけ出してくれたからこそ、その若者たちのエネルギーが視聴者にも伝わったのだと思います。撮影に協力して下さった親御さん、芸人仲間の皆さんにも心から感謝を申し上げます。

## 講評

構成も対象者も特別エッジが効いているわけではないが、青臭いリアルを晒す対象者の姿からディレクターとの揺るがない信頼関係が垣間見え、その対象者に寄り添っているかのような丁寧な密着が結果として番組を見ている人をも心情的に巻き込み、一緒に見守る側

にグッと引き寄せた。ただ底辺芸人の姿を記録して終わるのではなく、「親との和解」という要素も入れ込みストーリーの落とし所を持ってきた構成もベタながら良かった。

岩崎 マリエ

# 奨励新人賞

## ENCOURAGEMENT NEWCOMER AWARD



制作統括 小原美和(NHK)  
佐藤謙治(NHKプラネット)  
プロデューサー 山根幸太郎  
(パオネットワーク)  
編集 吉岡雅春(ビデオベディック)

企画・ディレクター  
**内島 悠介** (パオネットワーク)

明日へつなげよう 証言記録 東日本大震災89回  
心の傷に寄り添う ～訪問型ケアの現場から～  
NHK 総合

**受賞者コメント**

賞を頂けたのは、「心の病がある人への差別」がある中で、取材相手が覚悟を決めて話してくれたから、という一言に尽きると思います。そうした環境を作って頂いたNPO法人なごみの皆さんにも、心から感謝しています。私がこの業界に入って6年半。この短い期間だけ見ても、市井の人々の声を愚直に伝える番組は減っていると感じていますが、これからも「地べたの目線」を忘れず、伝えることを続けていきたいと思っています。

**講評**

まるで重たいパンチを喰らったかのよう。観終わってすぐには立ち上がれない作品だ。「仕事や役割がなくなると人はうつ状態になる」。ゴミで溢れかえる部屋を片付けながら話すのは東日本大震災で家族や仕事を失い、社会から分断された人々をサポートするNPOの職員。被災者の喪失と再生までの道のりが丁寧な取材で描かれている。カメラとの距離がディレクターの築いた信頼という線上で絶妙に描かれている。

下地 敏史



エグゼクティブプロデューサー チュック・ベッシャー  
(3ミニッツ)  
プロデューサー 塚本啓太(3ミニッツ)

ディレクター  
**富田 大智** (3ミニッツ)

Future is MINE  
Future is MINE アイヌ、私の声  
YouTube

**受賞者コメント**

この度はこのような賞を頂き、誠にありがとうございます。制作したドキュメンタリーが人に届いているという実感を得られるのは幸せなことです。今作は多くの方に嬉しい感想も頂きました。本作の主演である萱野りえさんと初めてお会いして、お話を伺った時に感じたのは、萱野さんの物語が普遍的で、多くの方が自分ごととして共有出来るものであるということです。なので、あくまで主軸は萱野さんに、その物語の中心に萱野さんのルーツであるアイヌがある、というバランスを意識しました。萱野さんには、人生の一部をカメラの前で見せてくださったことを改めて感謝したいと思います。

**講評**

現代に生きる多くの人にとってあまり身近な存在ではない「アイヌ」を、映像美とスタイリッシュな編集によって見やすい形で提示してくれた作品。また対象者が実際にフロリダの原住民と触れ合いアイヌのアイデンティティを強めるというストーリー構成は、アイヌ民族をよりグローバルな目線で伝えるだけでなく、民族・人種の垣根を超え世界誰しもが持つ「自分のアイデンティティ」という普遍的なテーマとも連動した。

岩崎 マリエ



プロデューサー 安田真一郎

企画・ディレクター  
**関 駿** (テレビ朝日映像)

日本のチカラ #178 TSUNAMI VIOLIN  
～未来へ紡ぐ優しき音色～  
民間放送教育協会 加盟局

**受賞者コメント**

「音楽で想いを伝える」。私が幼いころから大切にしてきた音楽体験であり、テレビを通じて伝えたいと考えていたこと。中澤さんの思いと共に私自身の願いを込めた番組がこうして賞を頂けるまでに至ったこと、誠に光栄です。また、このように再度、多くの人にTSUNAMI VIOLINを知ってもらえる機会に恵まれたことで、中澤さんはじめ、被災された多くの方々の思いに寄り添う瞬間にできたこと、微力ながら番組を制作して良かったと感じています。

**講評**

東日本大震災という重くなりがちなテーマをポジティブな目線で明るく描き素直に面白かった。我々の知らない所で「こんな活動をし努力している人がいる」ことを伝えるのもテレビの存在意義だと思っているので、震災復興に携わる方は数多いだろう中、よくバイオリンパア師の中澤さんを見つけたなど、リサーチ力も素晴らしい。演出に目新しさが無いという意見もあったが、それは今後の作品に期待したい。

工藤 恵司



プロデューサー 阿由菜聡子  
(テレビマンユニオン)

企画・ディレクター  
**中川 奈津子** (テレビマンユニオン)

地球リアル  
手帳類図書館～400冊の心の内、貸します。～  
NHK BSI

**受賞者コメント**

初めてディレクターをした番組でこのような評価をいただき嬉しいです。自分の興味を軸に仕事を続けていったらいいのかな、と思う一つの理由になりました。番組を撮影・編集している時間が本当に楽しかったです。手帳類図書館の日記には、自分のように迷い迷い生活している人がいたり、そうかと思えば恋にまっしぐらな男子高校生がいたり。不思議な魅力の詰まった場所を快く取材させていただいた関係者の皆様へ感謝でいっぱいです。

**講評**

赤の他人の日記や手帳を集め、展示している場所が渋谷にある。恋愛・仕事・夢など極めて個人的な心の内側が記された約400冊。叶わぬ恋心を4冊に渡って吐露した男性や、デザイナーのアイデア帳、と見せかけその日食べたもののメモなど。SNSでつぶやかれる言葉と違って、書いた人の筆跡が強烈な手触り感を放っている。ネットに手に入る安易な情報ではなく「物語が生まれる場」にアクセスしたディレクターの瑞々しい感性に惹かれた。

下地 敏史



企画・ディレクター  
**塩田 明里** (テレビマンユニオン)

サラメシ  
都道府県弁当の石橋さん  
NHK 総合

**受賞者コメント**

「弁当箱の中で、おいしい日本列島の旅をする。」私だったら絶対に続けられない、始めることもない…石橋さんの弁当作りへの情熱あふれる旅のお供ができたこと、先輩方に支えていただきながら番組作りができたこと、そして榮譽ある賞を頂けたこと、すべての出会いに感謝しています。やっと辿り着いたテレビの世界、たのしいです！愛すべき変人・石橋さん、本当にありがとうございました。

**講評**

フォーマットのなかにあって“人物が現れるのを見た”ような気がする。自分のお弁当のため47都道府県ごとの形を模した海苔(完璧な海岸線と島含む)を切り出す“熱中人”を、“変わった人”という形に切り取らない目線の優しさ。主人公の情熱に添うてみながら、一方で、娘と同僚の冷静な声で事態の可笑しさを思い出すバランスも美しい。制約と短い尺で、完成の喜びと寂しさを感じた。世界地図編が動き出すようなら…ぜひ続編を！

永井 朝香



# 特別賞

SPECIAL PRIZE

## 志村 けん



志村さんと日本中に笑いを提供して下さった仲本工事さんにトロフィーを受け取っていただきました

### 受賞者コメント

志村けんのおかげでこの賞をいただいたということは、ドリフにとって初めてのことで、誇りに思います。ドリフの仲間がこのような賞をいただいたというのは、本当に幸せなことだと思います。ありがとうございます。

仲本工事

### 推薦理由

笑いを追及しあの現場を共に出来たこと、そしてバラエティの作り方を教わった日々を私たちは忘れることはありません。志村けんさんが居たからこそ出来た番組は数知れず、私たち製作者に夢と希望を与えて頂き有り難うございました。

## 武井 泉



武井さんの奥様にトロフィーを受け取っていただきました

### 受賞者コメント

この度は「特別賞」を誠に有難うございました。遡ること36年前、第1回ATP賞にて「花王名人劇場 桂三枝たったひとり会」で「優秀賞」と「個人賞」を頂戴した夫は、新しモノ好きで好奇心旺盛な35歳のディレクターでした。学生バイト時代から実に50年…皆様との御縁に支えられ東阪企画はじめ製作会社や各局・世代を超え、様々な番組と活動を夢中で楽しんでおりました。テレビ人としての「最高の御褒美」に心より御礼申し上げます。

武井(渡邊)泉夫人 渡邊 祐子

### 推薦理由

長年ATP理事として製作会社の地位の向上に努め多くの若者を業界へと導きました。またATP賞の手に汗握る舞台演出は、観るものを飽きさせないコンテンツとして定着させました。これらの多大なる功績に対して特別賞を贈呈いたします。

## 「遠くへ行きたい」制作チーム



番組の制作チームを代表して、代表の中村さんにトロフィーを受け取っていただきました

### 受賞者コメント

テレビマンユニオンは1970年2月に設立され「遠くへ行きたい」は同年10月に放送がはじまり現在にいたります。実に50年の年月です。この間 私たちは世代を超えて「遠くへ行きたい」にアイデアを注ぎ続け、そしてテレビ番組制作の喜びを教えられてきました。この番組はテレビマンユニオンのすべてのスタッフにとって「宝物」なのです。「遠くへ行きたい」を表彰いただけること、心より感謝いたします。

テレビマンユニオン 代表取締役社長 中村 哲夫

### 推薦理由

1970年の放送開始以来2500回を数え今や日本最長の紀行番組旅というジャンルをテレビで確立した半世紀にわたる制作活動は、製作会社の役割と使命を果たし、業界の手本ともなっている。その存在は、テレビ番組の大事な要素の一つである、継続性の象徴です。

# 総務大臣賞

MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD

## 完本 怪談牡丹燈籠 Beauty&Fear

オットィモ、NHKエンタープライズ / NHK BS4K



原作 三遊亭圓朝「怪談牡丹燈籠」  
脚本・演出 源孝志(オットィモ) / 音楽 阿部海太郎  
制作統括 千野博彦(NHK)、伊藤純(NHKエンタープライズ)、八木康夫(オットィモ)  
プロデューサー 川崎直子(NHKエンタープライズ)、石崎宏哉(東映京都撮影所)

### 受賞者コメント

源孝志監督はかつて長編落語「怪談牡丹燈籠」全22段を何日も寄席に通って聞き入ったという。明治の天才落語家が描いた男女の愛欲そして壮大な復讐の物語。長すぎて複雑すぎて誰も手を出さなかった大作に源さんはものすごい熱意で対峙した。脚本の面白さは初稿からして比類なく、この混沌とした時代に生きる私たち

に響く物語として描き切った。強欲な人間の性に深く切り込んだ因果応報のドラマは、海外の人々にも訴えるだろう。栄えある賞に感謝します。

プロデューサー 川崎 直子  
(NHKエンタープライズ)

『面白さ』と『哲学』と『未来を切り開く力』 —



審査委員長  
井上 啓子

「先輩たちが作り上げてきたテレビの『面白さ』とそこに流れる『哲学』を引き継ぎながらも、『未来を切り開く力』を持ったソフトを評価する」・これが第36回ATP賞の審査方針でした。これからの時代を切り開く作品とは、一体どんな作品なのか、審査をしながら、審査員一人一人がこの問題を突きつけられたように思います。結果、ドキュメンタリー部門では、テレビの原点である現場への地道な取材を10年以上に渡って重ねた作品。ドラマ部門では、オリジナル脚本で多メディア展開に挑んだ作品が選ばれました。情報バラエティ部門では「リアリティーショー」を

巡り、賞の決定に時間がかかりました。時代とともに映像メディアが多岐にわたってきている今、作品のクオリティーだけではなく出演者のケアやSNSへの対処などへの私たち制作者自身のあり方が、大きく問われていると思います。最終的には、テレビ離れが進む10代視聴者の圧倒的な支持を得ていることに加え、出演者の精神的ケア及び、SNSへの対処に最善を尽くされている点に敬意を表し、確定しました。コロナ禍で制作現場が苦戦している中、この賞が少しでも現場の方々へのエールになることを願っています。

部門講評 DIVISION REVIEW

● ドキュメンタリー部門 ●

撮影できることに  
満足しない  
シャープな1カットを

今回は50本の作品が寄せられました。ドキュメンタリーの放送枠に限られる中新たな視点から見つめようとする作品や、撮影許可のできないような場所や人物にカメラを向ける事が可能となった作品、制作者も研究や調査に加わり、真実を掘り下げようとする作品等、意欲的な姿勢が数多く見受けられました。但し、撮影できたものから構成を考え後処理中心で制作したと推察される作品が、受賞作も含めて多々存在するように感じられました。

撮影できる事に満足せず、どう切り取るか、どう描くかを深く掘り下げた後カメラを回す事がよりシャープな1カットになる筈です。予算、期間、コロナウイルスとハードルが増す中で知恵を絞って頂きたいと願う次第です。

審査委員 高安 克明

● 情報・バラエティ部門 ●

若い視聴者を取り込む  
“新しい風”  
多様なメディアからの  
応募に期待

動画配信サービスの台頭に伴い、エンタメコンテンツが世に溢れ、0→1の新しい企画が生まれにくくなっている中、“何かと何かを掛け合わせる”“視点をずらす”“誰も見たことがないところまで深く掘る”そんな、制作者の知恵と工夫と信念が詰まった力作が数多く応募されました。一方で、NHK放送の作品に比べて、民放や動画配信サービスの作品の応募が少なく、その点は物足りなく感じました。“テレビの未来を切り開く”には、若い視聴者を取り込むための“新しい風”を吹き込まなければなりません。様々な映像メディアからの応募は、制作者のクリエイティビティと闘志を刺激し、その原動力にもなるはず。来年以降に期待したいと思います。

審査委員 小林 啓之

● ドラマ部門 ●

良質なオリジナルドラマ  
「ドラマの未来」を  
感じる作品に見応え

全40作品の応募。特筆すべきは、その半分近くが良質な「オリジナルドラマ」だったことである。昨今は原作もののドラマが中心だったが、制作陣への信頼とコンテンツの多様性が認められたのではないだろうか。また、地方発ドラマや企画段階から海外展開を見据えたドラマ、人の心に警鐘を鳴らすドラマなど多岐に渡り、「ドラマの未来」を感じさせる作品が多く見応えがあった。年々減る制作費、働き方改革、製作会社が著作権を得られないなど、今後の課題は多い。とはいえ、局側とうまく連携し、面白いドラマができるよう共に苦心しつつも楽しむ様子もうかがえた。まもなく5G時代。さらに枠を超えて、活躍の場が増えることに期待したい。

審査委員 内丸 摂子

ムーブメントに打ち勝つ才能を審査 —



審査委員長  
大野 光浩

エントリーはドキュメンタリー10作品、ドラマ1作品、情報・バラエティ6作品。テレビを取り巻く環境が大きく変わり、かつコロナ禍により生活習慣も大きく変わる中、テレビはまさに激動の中にいます。裏番組と争うのではなく、次々と生まれるムーブメントに打ち勝っていかねばならない。そんな新時代を担う人材を育てるため才能ある若きクリエイターの

背中を押してあげたい。そんな思いで審査しました。応募作品は丁寧な人間関係のもとでしか生まれないものや、思いもよらぬ撮影手法を取り入れたものなど、大きな熱量と可能性を感じるものばかりで大変頼もしく、嬉しく思いました。勇気をもって応募してくれた全ての方々の今後に期待しています。

総務大臣賞総評 MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD REVIEW

ドラマ性と「和」の要素が決め手に —



審査委員長  
吉村 文雄

本年度は6作品が総務大臣賞候補として推薦され、選考基準である「海外での評価に耐えうる個性的な演出の番組」に基づき審査が行われましたが、異なるジャンルにおいてそれぞれ優れた特長を備えた候補作からの選考作業はなかなか悩ましいものとなりました。台湾の人気ドラマをリメイクしアジア圏での実績も顕著な「僕はまだ君を愛さないことができる」、リアリティーショーにゲーム性を加味した「オオカミちゃんには騙されない」、番組フォーマットの海外展開が期待できる「音がでたら負け」、壮大な視点と映像美で描かれた「陶王子 2万年の旅 器の来

た道」を抑えて、最終選考には12年間にわたる取材が感動を呼ぶドキュメンタリー「おじさん、ありがとう ～子供たちへ・・・熱血和尚の遺言～」と高名な怪談話を現代の視点でドラマ化した「完本 怪談牡丹燈籠」の2作品が残りましたが、「海外でどのように受け止められるのか」という観点で議論が重ねられた結果、男女の業と欲、愛憎が絡み合うドラマ性に加え、陰影の際立つ映像美や本格的な殺陣など様々な「和」の要素が盛り込まれた「完本 怪談牡丹燈籠」が総務大臣賞に選出されました。

◆審査委員会  
審査委員長 井上 啓子(クリエイティブネクサス)

ドキュメンタリー部門 審査委員  
伊豆田 知子(スローハンド)  
三井 貴美也(ディレクターズ東京)  
高安 克明(いまじん)

情報・バラエティ部門 審査委員  
伊藤 慎一(シオン)  
松葉 直彦(テレビマンユニオン)  
小林 啓之(IVSテレビ制作)

ドラマ部門 審査委員  
内丸 摂子(東映企画)  
白川 士(ザ・ワークス)  
代情 明彦(AOI Pro.)

◆新人賞  
審査委員長 大野 光浩(えすと)  
審査委員 下地 敏史(いまじん)  
工藤 恵司(ジッピー・プロダクション)  
永井 朝香(ドキュメンタリージャパン)  
岩崎 マリエ(日テレ アックスオン)

◆総務大臣賞  
審査委員長 吉村 文雄(東映)  
審査委員 井口 高志(電通)  
品田 英雄(日経BP社)  
長谷川 朋子(放送ジャーナル社)

受賞式司会・進行 森下 絵理香(NHK)

主催：一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟  
後援：総務省、経済産業省、日本放送協会、日本民間放送連盟